

平成 28 年度 一学期 終業式 式辞

おはようございます。今日で 一学期も終了。今日の午後からは楽しい夏休み。楽しみですね。

この一学期はみんなにとってどんな一学期だったでしょうか？ どんなことが心に残ったでしょうか。

私は、実は、この 6 月 22 日に惜しくも亡くなった小林麻央さんの事がとても心に残りました。最後の最後まで、とても強い人でした。とても好きな物語に、「強い子」というのがあるのを思い出し、一学期の終業式にはみんなにその話をしたいと思っていたので紹介します。

りーちゃんという女の子のお話

ある難病の女の子のお話

女の子は進行性の難病で入院。

大きな手術が必要で、失敗すれば命を落とすかも・・・。

体は鉄パイプみたいなもので包まれ、
頭は鉄の輪で止められて、
とてもつらそうなのに、

女の子は笑顔だった。

「なんで、こんな笑顔でいられるの？」

と病院の方に聞くと

「お母さんのため」と言う。

お母さんはその子の姿を見ると、
悲しくて仕方がない。

どうしてこの子はこんな目に・・・。

と自分を責め、苦しむ。

女の子は大好きな、お母さんの、
そんな姿を見るのがつらかった。
お母さんを元気づけたくて、
笑顔を見せた。

やがて、お母さんのために
童話をつくるようになった。

その中の「強い子」というお話。

彼女がまだ生まれる前、

ある日、神様に呼ばされました。

すると生まれる前のたくさんの赤ちゃんたちが並んでいて、
神様からひとりずつ、

プレゼントをもらっている。

「美人に生まれたい！」

「お金持ちの家に生まれたい！」

神様は願えばどんなプレゼントでも
もらえます。

女の子の番になりました。

ところが彼女は、
何が欲しいかきめていません。

ふと見ると、

神様の後ろに、
「重い病気」という
プレゼントがありました。

「これは誰がもらえるの？」

「これはすごく
苦しいプレゼントだよ。」

「誰がもらえるの？」

「一番強い子だよ、
このプレゼントをもらった子は、
生まれてからすごく苦しむ、

だから一番強い子にしか
あげられないんだ。」

女の子は思った、
「他の子がもらったら、その子にあったとき、
私はつらいだろうな・・・。」

そして勇気を出して神様に言いました。

「そのプレゼント、私に下さい。

私が一番強い子よ。
他の子にはあげないで、

他の子が苦しむのは嫌だから。」

「そうか、君が一番強い子なんだね。
君が来るのを待ってだんだ。」

「ねえ、ママ

そうやって神様にお願いして私は産まってきたんだよ。」

ママは泣きながらも、笑顔で彼女を抱きしめました。

・・・というお話です。

ひょっとしたら、この中にも、この一学期にとても辛い思いをした子がいるかもしれません。また夏休みに辛い思いをすることがいるかもしれません。

その時に、このお話を思い出してくれたら嬉しいです。苦しいプレゼントは強い子どもだからこそ、貴方だからもらえたんです。その分、貴方はほかの人を幸せにしていますから。

全ての人に生まってきた意味があるんです。
勇気を持っていきましょう。

それでも、本当に辛くて、どうしようもなかったら、学校のホームページにも番号を書いています、悩み相談室に電話してください。0120-078310 0120のゼロ ナヤミイオ一です。覚えてくださいね。

さて、だけど人生は、しんどいことばかりではありません。
小林麻央さんもこう言っていました。

例えば、私が今死んだら、

人はどう思うでしょうか。

「まだ34歳の若さで、可哀想に」

「小さな子供を残して、可哀想に」

でしょうか？？

私は、そんなふうには思われたくありません。

なぜなら、病気になったことが

私の人生を代表する出来事ではないからです。

私の人生は、夢を叶え、時に苦しみもがき、

愛する人に出会い、

2人の宝物を授かり、家族に愛され、

愛した、色どり豊かな人生だからです。

だから、

与えられた時間を、病気の色だけに

支配されることはない。

なりたい自分になる。人生をより色どり豊かなものにするために。

だって、人生は一度きりだから。

さあ夏休み、いろんなことに挑戦して、彩り豊かな時を過ごしましょう。

中学生の夏は今しかないですからね。

そして8月25日にまた全員の元気な顔を見られるのを楽しみにしています。